

新型コロナウイルス感染症に関するメッセージ
～日本義肢装具学会の会員に向けて～

新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大しています。本症に罹患し闘病中の方の一日も早い回復をお祈りするとともに、お亡くなりになられた方に対し心から哀悼の意を表します。

義肢装具ユーザー、義肢装具診療に携わる医療職の多くが様々な形で新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。ユーザーは疼痛などの症状を感じても医療機関への通院を控え、適切な義肢装具のチェックや修正・更新がされていない可能性があります。またユーザーの多くは身体障害者であり、彼らが外出を控えなければならない状況は、身体機能の低下につながり、場合によっては義肢装具の不適合を生じているかもしれません。しかし診療規模を縮小している医療機関も多く、義肢装具を含むリハビリテーション診療の縮小は、患者サービスの低下につながっている可能性があります。一方で新型コロナウイルス感染症は血液凝固系の異常を誘発し、脳梗塞や四肢切断につながることもあることが分かってきています。こういった患者さんに対して適切な義肢装具診療が行われない事態は、避けなければなりません。

当初は新型コロナウイルス感染症が義肢装具診療に及ぼす影響は少ないと考えていましたが、このように現時点でも多くの問題が生じています。義肢装具ユーザーと接する可能性のある学会員は、感染対策に精通し、診療を通じた感染伝播を完全に防がなくてはなりません。ISPOは4月6日付で、COVID-19パンデミックの中で義肢装具クリニックを開く際の注意点を公開しました。日本では一定の規模の医療機関に勤務する医療従事者には、感染対策に関する研修が義務付けられていますが、本学会の会員の中にはそのような研修を受けた経験のない方も多いと思います。最低限、標準予防策（standard precaution）の概念を身につけ、マスク着用、手指消毒を励行すると共に、自分自身の行動を見つめ直し、ウイルスに感染しないように注意しましょう。

新型コロナウイルス感染症が数ヶ月で完全に消失することはないと考えています。時間をかけて収束しながら、感染症と共生する、という考えもあります。ポストコロナ（post-coronavirus）という言葉まで現れ、人々の生活が今までと変わる可能性も指摘されています。われわれ学会員は医療者、研究者として正確な情報に基づき、義肢装具の適応となり得る患者さんや既存のユーザーに対応していかなければいけません。全学会員がこの危機を乗り越え、笑顔で義肢装具の研究や診療に携わることのできる日が一日も早く戻ることを願っています。

2020年5月8日
一般社団法人 日本義肢装具学会
理事長 芳賀信彦